

熊本高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	世界史
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生物化学システム工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	配付プリントに基づいて授業を進める。授業では配付しない。Webclassから各自プリントして持参すること。『世界の歴史』（全30巻）中公文庫。					
担当教員	遠山 隆淑					
到達目標						
われわれが「当たり前」のものとして暮らしている「民主的な」「国民国家」がどのように形成されてきたのか、それが歴史的にいかに特殊なものなのかに関する知識を獲得してほしい。具体的な内容は次の通り。 1.古典古代（ギリシアおよびローマ）の政治共同体であった都市国家の特質と歴史を理解する。 2.キリスト教会の特徴と中世ヨーロッパにおけるその影響について理解できる。 3.宗教（改革）と近代主権国家の成立との関係について理解できる。 4.近代国民国家形成の歴史とそのしくみについて近代イギリスならびにアメリカ、フランスの歴史を概観することによって理解する。 5.国民国家同士が対立し帝国主義化していく様相について、19世紀の西洋史を概観することによって理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	科目に関する基礎的知識（語句、年号等）を覚え、試験で適切に記述できる。		講義で提示された基礎知識（語句、年号等）を8割程度覚え試験で答えることができる。		講義で提示された基礎知識（語句、年号等）について試験で答えることができない。	
評価項目2	講義内容について、教員の口頭での説明も丁寧に聞き取りながらノートをとることができる。		講義における教員の口頭での説明を聞き取りノートに取っている。		講義における教員の口頭での説明を聞き取りノートに取ることができない。	
評価項目3	講義の説明項目について意味を理解し、100字程度の文章で適切に説明できる。		講義の説明項目について意味をある程度理解し、文章で意味が通じるように記述できる。		講義の説明項目について意味が理解できない、または文章で意味が通じるように記述できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	われわれが生きる現代の「民主的な」「国民国家」がどのように形成されてきたのかというテーマに着目して、キリスト教など西欧思想の解説に重点をおきながら、西洋（欧米）の歴史を概観する。					
授業の進め方・方法	本講義では、配付プリントを中心に、教科書を補足的に使用しながら、西洋史のおおまかな流れの把握をめざして「講義」を進める。					
注意点	・配付のプリントに沿って講義を進めます。しかし、テストに出るのは、プリントに書かれているものだけではなく、口頭で伝えるものがありますので、講義のポイントや論理的な展開を押さえながら、きちんとメモをとること。 ・西洋の人名や事項名は、なじみのないものばかりなので、毎回復習をして用語をおぼえこむこと。講義中にテスト問題のヒント（テストに出やすい箇所などについて）などを話すこともあるので、教員の話をしっかりと聞くこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション 古代ギリシアの歴史①	・講義全体の進め方ならびに、歴史的相対性の意味を理解できる。 ・古代民主政の観点から古代ギリシアの歴史について理解する。		
		2週	古代ギリシアの歴史②	古代民主政の観点から古代ギリシアの歴史について理解する。		
		3週	古代ギリシアの歴史③	古代民主政の観点から古代ギリシアの歴史について理解する。		
		4週	古代ローマの歴史①	古代ローマの内政と外交（対外的発展ならびに帝国化）について理解する。		
		5週	古代ローマの歴史②	貴族と平民の対立の中で展開する古代ローマの内政と外交（対外的発展ならびに帝国化）について理解する。		
		6週	古代ローマの歴史③	貴族と平民の対立の中で展開する古代ローマの内政と外交（対外的発展ならびに帝国化）について理解する。		
		7週	キリスト教の歴史①	原始キリスト教の歴史と思想を理解する。		
		8週	前期中間試験	それまでの学習の理解度を問う。		
	2ndQ	9週	キリスト教の成立②	キリスト教の組織化について理解する。		
		10週	「キリスト教共同体」としての中世ヨーロッパ①	封建国家とカトリック教会の関係ならびにこの関係が影響を与えた中世ヨーロッパの歴史について理解する。		
		11週	「キリスト教共同体」としての中世ヨーロッパ②	封建国家とカトリック教会の関係ならびにこの関係が影響を与えた中世ヨーロッパの歴史について理解する。		
		12週	「キリスト教共同体」としての中世ヨーロッパ③	封建国家とカトリック教会の関係ならびにこの関係が影響を与えた中世ヨーロッパの歴史について理解する。		
		13週	ルネサンス①	ルネサンス期に生じた思想的変化を理解し、その文化的成果を学ぶ。		

後期		14週	ルネサンス②	ルネサンス期に生じた思想的変化を理解し、その文化的成果を学ぶ。
		15週	大交易時代とグローバル・ヒストリー	大交易時代の進展を「グローバル・ヒストリー」の観点から理解する。
		16週	前期末試験の返却と解説	それまでの学習の理解度を問う。
	3rdQ	1週	宗教改革①	宗教改革の思想ならびにその歴史的展開を理解する。
		2週	宗教改革②	宗教改革の思想ならびにその歴史的展開を理解する。
		3週	宗教戦争と主権国家の成立①	中世キリスト教世界の解体を主権国家の成立との関連で理解し、主権国家の特質を学ぶ。
		4週	宗教戦争と主権国家の成立②	中世キリスト教世界の解体を主権国家の成立との関連で理解し、主権国家の特質を学ぶ。
		5週	絶対王政の時代	いわゆる「絶対王政」期の政治体制と社会体制（アンシャン・レージュム）の特徴を理解する。
		6週	二つの革命とイギリス議院内閣制の成立①	二つの革命（「ピューリタン革命」、「名誉革命」）を通じたイギリス議院内閣制の成立について理解する。
		7週	二つの革命とイギリス議院内閣制の成立②	二つの革命（「ピューリタン革命」、「名誉革命」）を通じたイギリス議院内閣制の成立について理解する。
		8週	後期中間試験	それまでの学習の理解度を問う。
	4thQ	9週	アメリカの独立①	アメリカ合衆国成立の経緯について理解する。
		10週	アメリカの独立②	アメリカ合衆国成立の経緯について理解する。
		11週	フランス革命①	フランス革命による国民国家の成立と民主主義を定着させることの難しさについて理解する。
		12週	フランス革命②	フランス革命による国民国家の成立と民主主義を定着させることの難しさについて理解する。
		13週	フランス革命③	フランス革命による国民国家の成立と民主主義を定着させることの難しさについて理解する。
		14週	19世紀のヨーロッパ①	イタリアやドイツなどの国民国家成立の経緯と国際関係の展開について理解する。
		15週	19世紀のヨーロッパ②	イタリアやドイツなどの国民国家成立の経緯と国際関係の展開について理解する。
		16週	学年末試験の返却と解説	それまでの学習の理解度を問う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	2	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	2	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0